
思いつきで描いたゆっくりとした日常

ホットコーギー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思いつきで描いたゆっくuriとした日常

【Nコード】

N1002U

【作者名】

ホットコーギー

【あらすじ】

東方はあまり知らないにわかなのですがさいきんゆっくuriのキモ可愛さにはまってかいてみました。

思いつきで考えて書いてますので私の適当な話がさらに適当になっております。いつ止めるかも分かりません。

細かい設定が気になる方にはオススメできません。

ちなみにゆっくuriの設定は一般的に？使われている物を使用しています。

もしかしたら凄惨なシーンを描く日もいつかくるかもしれません。

家のちえんに胸が生えてきました

俺は実家から大学に通うごく普通の大学生だ。

今日は土曜日。

講義もなければいつになるかわからん将来の夢のために所属している放送研究会の活動も休み。

両親と弟、祖母といった家族も皆出かけていて家には俺と飼っているコーギーと、ゆつくりちえんの一人と一匹だけだ。

ゆつくりとは、ここ最近突然現れた人の生首に似た生物で、今ちよつとしたペットブームになっている生き物である。

このゆつくりという生き物、出鱈目なことに体は饅頭で出来ていて中身には餡が詰まっており、水と衝撃には弱いがオレンジジュースをかけてやることで大体の怪我は

良くなってしまう正にトンデモ饅頭だ。

俺が家で飼っているのはちえん種という種類で、猫耳と二又の尻尾が特徴的なチョコ饅頭だ。

ちえんを飼うことになったきっかけは、野良ゆつくりだったちえんと仲良くなったからだ。

ちえんは生まれも育ちも野良ゆつくりで、同じちえんと、赤いリボンがトレードマークのれいむというゆつくりの番の間に生まれた子供であつたらしい。

本来野良ゆつくりは人間を見下してゴミ捨て場や菜園、畑を荒らしたり、人間の家に上がりこんで悪さをするという本来人には嫌われたゆつくりたちだったが、そんな野良達にも人間と共存できる者達がほんの僅かだが存在していた。

そんなゆつくり達は街の掃除やゴミの回収を行ったり、ゲス化した悪いゆつくりを駆除業者に渡すなどしてこはんやお菓子をもらい、生計を立てている。

ちえんもそんな人間と共存できる野良ゆつくりの一匹だったのだ。犬の散歩の途中偶然ちえんと知り合った俺は、日々を重ねるにちえんと仲良くなり、ちえんも俺や愛犬と仲良くなったので、俺はこいつを買うことに決め、飼いゆつくりの証であるバッジを得るためにバッジ試験を受けさせた。

結果は、野良ゆつくりが得られるギリギリの難易度の銀バッジで、めでたくちえんは飼いゆつくりの証を手に入れたのだった。

神奈川に行き、ペットショップに就職した友人に電話で聞いてみたところ、人と共存できるほどの賢さを持った野良ゆつくりなら銀を少々楽に取れてもおかしくはないらしい。

普通野良ゆつくりより綺麗なペットショップで買ったゆつくりを買うと言うが、俺はゆつくりの場合賢い野良を最初から飼った方がいいと思っていた。

ペットショップで買うゆつくり達は確かに賢いが、増長して飼い主を見下して家出したり、野良ゆつくりと生殖行為に及んで子供を増やして捨てられてしまうという話も聞いたことがある。

金を払ってそんなリスクを負うより、最初から苛酷な野良環境を知り、飼われる幸せが分かる野良の方が反抗する可能性が少ないと考えるのが俺の持論だ。

勿論、ゲスな野良は勘弁だが。

気味の悪いものが嫌いな父さんと猫嫌いな母さんを説得して飼ったちえんは予想していたよりも中々いい個体で、酷い反抗はほとんどせず、家族とも打ち解けて可愛いペットになってくれた。

特に中学校の保健の先生でストレスの多い母と、会社で管理職という疲労の耐えない仕事についている父はちえんの「わかるよー」という言葉に癒され、最初は嫌がっていたくせに俺以上にスキンシップを行っている始末だ。

話はわかるが今日は休み。

バト。ピもスーパ一。ーロータイムもない休みの日は寝るに限る。しかし、そんな穏やかな土曜の昼前に、耳を劈く絶叫が響いた。

「おにいさー！ーん！ー！たいへんだよおおお！ー！はやくおきてねえええええ！ー！」

「ワンワン!ワン!」

突如自宅の一階から、ちえんと飼犬のコーギーの鳴き声が聞こえてきたのである。

俺はあわてて飛び起きると、部屋を出て階段を駆け下りた。

-
-
-

「おいちえん！どうした！？」

俺は急いでリビングに入ると、目を丸くして固まった。

気づいていると、家の愛犬のオスコーギーも口を硬く閉じ、呆然としたようなつぶらな目でちえんを見ていた。

「にゃー！おにいさん！ちえんはどうつきさんになったよ。わかるよねー。」

わかりやすく説明しておこう。

あ、ありのままに起こったことを話すぜ。昨日まで生首だけだった
ちえんの底部から茶と白のワンピースを着た胴体が生えて、後頭部
にあったしっぽが尻のほうに移動していた…

突然変異だとかその時奇跡が起こったとかそんなチャチなもんじゃ断じてねえ…もっと恐ろしいものの片鱗を今味わってるぜ…

【家のちえんに胴が生えてきました】

とまあ、おかしい俺が思った出来の悪い冗談は華麗にスルーし、本題に入ろう。

さつきも言ったが、昨日まで首だけの状態だったちえんに突然胴体と両手両足が生えてきた。

朝何も騒がしくなかったことから家族がみんな出かけた後に生えてきたんだろう。

ちえんもみんなが出かけた後、愛犬と一緒に昼ねをしていて、ふと起きたら胴付きになっていたらしい。

ちえんのような通常種ゆつくりの突然の胴付き化：低い確率で起こるその現象の全容はいまだ説明されてはいないらしい。

なんでも、ゆつくりが周りの者を「ゆつくりさせたい」という気持ちが極限まで高まったとき胴が生える、そのゆつくりにとって「ゆつくりできること」を極めれば胴が生えるだという説はあるが、如何せん基準がまだ不明だ。

まあ何にせよ、ちえんは突如他のゆつくりを食べる捕食種のゆつくりれみりやゆつくりふらんのように、胴付きとなってしまったのである。

「これでいぬさんをなぐでなぐでしてあげられるよー。なぐでなぐで」

「ワンワン！ハッ！ハッ！ハッ！ハッ！」

今ちえんは手に入れた右手で愛犬の頭をやさしくなでている。

愛犬もにつこり笑って舌を出しているところを見ると嬉しいようだ。しかし俺は愛犬と違い、まだ呆然とした気分が抜けない。

それはそうだ。昨日まだ赤ちゃんだった子供がいきなり四歳児あたりの大きさに成長したような現象を目の当たりにしたのである。すぐに元の気分に戻ることはできない。

とりあえずほんとうに家のちえんなのかどうか確認してみよう。

「ちえん。」

「ゆ？おにいさんどうしたの？」

「聞きたいことがあるんだがお前は家で飼っているちえんなのか？」

「にゃ！？」

俺が聞くとちえんは思い切り背筋を伸ばし、表情を驚愕に染めた。

「どうしてそんなこというのおおおお！？わからないよおおお
！！」

ちえんは凄まじい同様を見せ、立ち上がって俺を見る。
とりあえず俺は質問を続ける。

「昨日俺が食べた夕御飯はなんだ？」

「ゆゆ！まーぼーどうふさんだよ！」

「家の愛犬は何歳だ？」

「ななさいだよ！」

「遊。王とバト。ピで俺が気に入ってるカードは？順に答える。」

「さい。ーえんどさんと。なてつくすたらいくぶるむさんだよ！」

…間違いない、本当に家のちえんだ。謝ろつ。

「ごめんなちえん。疑って悪かったよ。」

「ゆうー！ちえんのことかわからないなんてひどいよ！ぶくー！」

ちえんは怒って涙目になりながらゆっくりにとって威嚇行為である
空気をほほに含んでほっぺを膨らませる「ぶくー」という行為を行
った。（お馬鹿な野良はこれをやって短気な人間によく潰される）
どうやら胴付きになってもぶくーで膨らむ顔の大きさは変わらんよ

うだ。

しかし…

「ふふふ、ちえんよ、ぷくーをしたな？」

「ゆ？」

「この瞬間のために俺は生きているのだあ！」

俺はちえんの膨らんだほっぺを両手で左右共に握ると、素早く揉み解し始めた。

「に、やあ、あ、あ、あー！！」

「ふっはっはっは！相変わらずしつとりもちもちだなあ！」

俺はこのぷくーで膨らんだほっぺたを弄繰り回すことが大好きなのである。

このしつとりもちもちな触感がどうにも溜まらない。

国宝級の絶品であると俺は思っている。

五分ほどほっぺたを揉み解して行為を終えると、ちえんは吸った息を全部吐いて泣き始めた。

「ゆあああああああん！！おにいさんがいじめるよおおおおお！！わがらないよおおおおお！！」

「ワンワン！ガルルルル…！」

むむ、我が愛犬もコーギーなだけに俺の過剰なスキンシップに抗議してやがる…謝らなければ…

俺はちえんの頭に手を乗つけると、優しく撫でてやった。

「えぐ…えぐ…おにいさん…？」

「わりいわりい、悪乗りして悪かったな。」

俺は二カつと笑ってちえんを慰めてやると、ちえんは泣き止んできよんとして俺を見ていた。

こんなん泣き止むんだから楽なものだ。

しかし、そう思っていた矢先にコイツ、得意げな顔してこう言いやがった…

「ゆっくりはんせいしてね！はんせいしたらあまあまちょうだいね！たくさんでいいよ！わかるねー？」

「コラ、調子に乗るなっ。」

俺は生意氣を言ったちえんにデコピンを見舞った。

ちなみにゲスっ気があるからちえんはこう言ったのではない。少々欲しい物にがめつい俺に似ただけだ。

まあ、ゲスはあるだがゆっくりは生意氣をちよつと言っくらいが可愛いんだけだな。

「にゃああああああ！わがらないよおおおおおお！？」

あ、デコピンでまた泣き出しやがった。

取りあえず胴付きになった祝いにちえんにもデッキをあげよう。

ちゃんと出来るかはわからないが、通常種は胴付きになれば頭がよくなると効いたのでカードゲームもできるかもしれない。

ちえんも前から興味心身だったしな。

俺は新しい対戦相手の誕生にウキウキしていた。

この後家族が帰ってきてまた一悶着あったのだがそれは別の話。

家のちえんに胸が生えてきました（後書き）

胸付きになった点があまり重要になってないな…「わかるよー」も使ってないです…

とりあえずちえん好きなので書きました。

それだけです。

感想と批判があればおねがいします。勉強になりますので。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1002u/>

思いつきで描いたゆっくりとした日常

2011年10月8日23時11分発行